【三月の言葉（平成二十九年）】

迷いとは進む道がわからないことであり、
救いとは進む道が明らかになることです。

私たちはいま、この世に生を受けていますが、このいのちはどこに向かって生きようとしているのか。この問いに答えているのが浄土真宗の教えです。

進む道がわからないことを迷いと言います。迷いとは、どっちにしようか決断がつかないこと、進む道がわからないことです。救いとは、進む道が明らかになることであり、いのちの行き先が見つかることです。安心して生き、安心していのちを終えていける道が見つかることです。

阿弥陀如来は、進む道を見失い迷っている私たちにお浄土への道を示して下さっているのです。

浄土真宗は、浄土への道を問い、聞いていく教えです。

この道は、生死を超えていく道であり、苦しみ多き人生を乗り越えていく無碍（むげ）の一道です。

※無碍＝妨（さまた）げのないこと。何ものにもとらわれないこと。

（大阪府羽曳野市　明教寺ホームページ参照）